

標 題	出雲ぶどう部会と出雲農林高校の連携により優良系統デラウェア苗木を生産 ～苗質は良好で、今後の増産に期待～
-----	---

(ダイジェスト)

12月21日、出雲農林高校の食品科学科の生徒が、ぶどうの課題研究の一環として、平成29年5月から栽培していた優良系統デラウェアの苗木掘り上げ式が行われました。生徒代表から、育成した苗木がJAと出雲ぶどう部会の代表に手渡され、その評価は大変高く、今後の増産が期待されています。普及部としては、今後とも部会と同校が連携して優良系統デラウェア苗木の安定生産、供給ができるように支援していきます。

部会は、園地の老木化等により栽培面積や出荷量が減少しているデラウェアの産地再生を目指し、優良系統デラウェアへの改植を進めています。優良系統は益田市のぶどう農家で発見されたもので、果粒肥大が良く、大玉となることから、通常2回行うジベレリン処理を1回（現在、農薬登録申請中）に省力化できるメリットがあります。

これまで、改植に必要な優良系統デラウェアの苗木は、県外業者へ生産を委託していますが、品質にバラつきがあり、部会からは地元での良質な苗木の生産が求められていました。

そこで、地元の特産品であるデラウェアの課題研究に取り組んでいる出雲農林高校と部会が連携し、今年度から同校での苗木生産がスタートしました。平成29年3月には、部会が同校にビニールハウスを無償で貸与し、同校の食品科学科の生徒が課題研究の一環として、5月から12月まで苗木の栽培管理を行いました。農業技術センターと出雲農業普及部では、接ぎ木から掘り上げまでの栽培管理や生育調査の指導を行いました。

生徒の細やかな栽培管理により、苗木は順調に生育し、12月21日に行われた掘り上げ式では苗木（約150本）が、JAに引き渡されました。今後、苗木はJAを通じて、改植を希望する農家に供給される予定となっています。

同校の西山未来さん（2年生）は生徒代表のあいさつで「夏休みの暑い時期の管理はとても大変だったが、良い苗を渡すことができ嬉しい。」とコメントし、出雲ぶどう部会の園山榮部会長は「根張りのしっかりした良い苗木を生育してもらい嬉しい。今後はさらに本数を増やして欲しい。」とあいさつされました。

来年度も5haの改植が予定されており、同校では300本の苗木を育成する予定です。今後も普及部としては、関係機関と連携し、苗木の安定生産・供給ができるよう、継続的な支援を行っていきます。



苗木の掘り上げの様子



苗木の引き渡しの様子